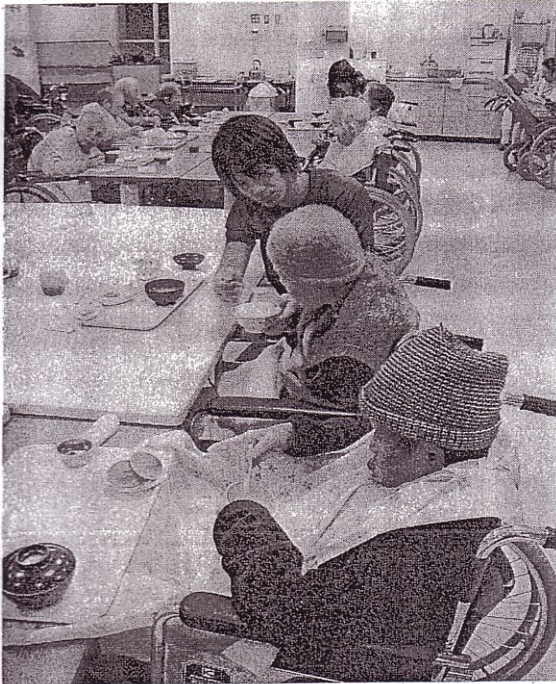


暮らしナビ 生活 Lifestyle

kurashi@mbx.mainichi.co.jp



ハッソさんが樋谷荘に入ったのは06年。足を骨折して入院したところ、認知症の症状が出始めたためだ。長男の無職、井

樋谷荘で夕食をとお年寄りの。家族の意識の変化を受け、職員も看取りに積極的になり始めている
 愛媛県四国中央市で

家族の思い大切に

「身内以上」に職員が看取り

入居時に、家族や本人に意思を確認する。食事は職員と家族に死に化粧をほどこされた。玄関でのひつぎの見送りには、非番を含む職員約30人が立ち、涙を流して別れを惜しんだ。クラクションが2回鳴るのを合図に全員が頭を下げ、車が見えなくなるまで、玄関から離れなかつた。

身体状態やりとり頻繁に

入居時に、家族や本人に意思を確認する。食事は職員と家族に死に化粧をほどこされた。玄関でのひつぎの見送りには、非番を含む職員約30人が立ち、涙を流して別れを惜しんだ。クラクションが2回鳴るのを合図に全員が頭を下げ、車が見えなくなるまで、玄関から離れなかつた。

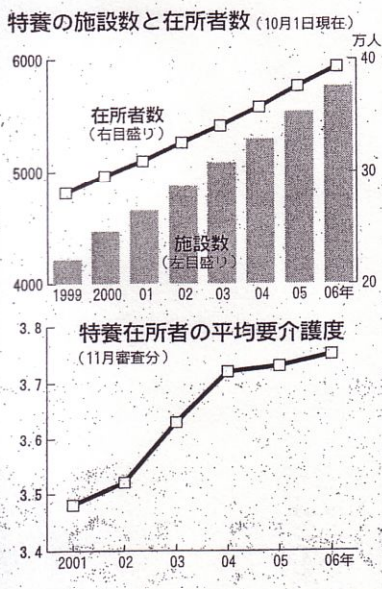
どこで死にますか

第3部 介護施設②

明日の私
 愛媛県四国中央市の特別養護老人ホーム「樋谷荘」。06年9月、井川ハッソさん(当時99歳)は最期のときを迎えていた。妻が死に、延命を目的としたターミナルケア(終末期医療)に移ったのが5日前。6畳ほどの個室は息子2人と娘2人、孫3人に、施設の介護職員、医師、看護師など20人ほどでいっぱいだった。家族が手足をさすり名前を呼ぶと、ハッソさんは口を動かしかけた。おぼあ、もうちょっと頑張れ。励ます声が上がった。でもすぐに、「もう頑張らんでええよ。よう頑張った」と家族みんなで打ち消しあった。

入居時に、家族や本人に意思を確認する。食事は職員と家族に死に化粧をほどこされた。玄関でのひつぎの見送りには、非番を含む職員約30人が立ち、涙を流して別れを惜しんだ。クラクションが2回鳴るのを合図に全員が頭を下げ、車が見えなくなるまで、玄関から離れなかつた。

入居時に、家族や本人に意思を確認する。食事は職員と家族に死に化粧をほどこされた。玄関でのひつぎの見送りには、非番を含む職員約30人が立ち、涙を流して別れを惜しんだ。クラクションが2回鳴るのを合図に全員が頭を下げ、車が見えなくなるまで、玄関から離れなかつた。



要介護者向けの主な高齢者施設は、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設(老健)、介護療養型医療施設(療養病床)の三つ。平均在在日数は、老健が約8カ月、療養病床が約1年なのに対して、特養は約4年と長く「終の住みか」としての性格が強い。それだけに看取りの体制整備が急務になっている。

特養の平均在在日数——4年
終の住みか 色濃く
 が増えており、利用者も40万人に迫る勢い。新たな入所者は重度者を優先していることから平均要介護度も年々上がり、06年度で3.75になっている。厚労省は療養病床削減に伴い、原則として社会福祉法人や自治体しか認めていない特養の設置を新たに医療法人にも認める方針を示しているほか、老健での看取りについても推進する方向だ。

入居時に、家族や本人に意思を確認する。食事は職員と家族に死に化粧をほどこされた。玄関でのひつぎの見送りには、非番を含む職員約30人が立ち、涙を流して別れを惜しんだ。クラクションが2回鳴るのを合図に全員が頭を下げ、車が見えなくなるまで、玄関から離れなかつた。